

年衰血氣減少不復制於石。石熱獨盛，則腎爲之燥、腎燥故引水而不小便也。其病變多、癰疽此坐熱氣、留於經路。經路不利、血氣癰澀、故成癰膿。○中略

### 治渴利方第二

病源論云、渴利者、隨飲小便是也。由少時服乳石、石熱盛時、房室過度、致令腎氣虛耗下焦生熱、則腎燒、腎燒則渴。然腎虛又不能傳制水液、故隨飲小便也。○中略

### 治內消方第三

病源論云、內消病者、不渴而小便多是也。由少服石、石熱結於腎內、熱之所作也。小品方云、夫內消之爲病、皆熱中所作也。小便多於所飲、令人虛極短氣。內消者、食物皆消作小便、去而不渴也。治之苟起湯。○下略

### 〔俗說正誤夜光珠〕氣淋を消渴といふ説

淋病のかろきを、俗に消渴氣といふは謬りなり。小便亥げく行けども、澀り滯りて少く、常に餘瀝ありて盡さぬは、氣淋とて、五淋のうちの一つなり。さて又消渴といふは、津液の不足より發る病にて、上中下の三消あり、上消は咽渴きて多く飲み、舌そこねて食少く、二便つねのごとし、中消は口乾きて多く飲み、よく食して瘦せ、小便赤くして數し、下消は煩れ渴きて、多く飲み、耳焦れ、小便濁りて膏のごとし、これ大概を玄るす、諸家の病論に詳なり、見るべし。

### 〔有林福田方〕消渴

論云、夫消渴者、水ヲ飲テ小便セザル是也。小便頻數ト雖ドモ、而脂ナクシラ麪片ノ如クナル、此當消渴ナリ。食モノヲ喫フコト多ケレドモ、甚渴カハカズシテ、小便ハ少クシテ油アルニ似テ、數ゲキ者ハ此消中ナリ。渴テ水ヲ飲コト多ニアタワズ、但腿腫テ脚先ヅ瘦セ、陰萎弱クシテ、小便數キ者ハ消腎ナリ。○中略